

平成 16 年度 秋期 情報セキュリティアドミニストレータ試験 解答例

午後 試験

問 1

出題趣旨	
<p>個人情報保護法が 2005 年 4 月からの全面施行に伴い、個人情報を扱う企業では、その管理や安全管理対策が急務の課題になっている。</p> <p>本問は、情報漏えい問題を起こした企業を例にして、情報セキュリティに関する教育・運用の管理策を具体的に企画・実施する能力や、情報が漏えいしたときのリスクコミュニケーション能力など情報セキュリティアドミニストレータの立場から具体的に解答することを求めている。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	a 個人情報取扱事業者	
	(2)	b ア	
		c ク	
		d ウ	
		e コ	
設問 2	(1)	盗まれたパソコンにダウンロードされた会員を特定すること	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報へのアクセス者を特定できないこと ・ 個人ごとのアクセス制限ができないこと ・ 個人ごとのアクセス履歴がとれないこと ・ パスワードの変更が難しいこと 	
	(3)	<p>個人データの漏えいをおおびしつ、説明責任を果たすために具体的事実を伝え、注意を喚起する観点から、次の三つを適切に記述していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 21 日にパソコンの盗難があった事実 ・ その中には、氏名、住所、口座番号などの 512 名の個人データがはいっていたこと ・ 今後、架空請求や DM など悪用される可能性があること 	
設問 3		不要になった接客カードの廃棄に立ち会うこと	
設問 4	(1)	第 1, 2 の事件の再発を防ぐためにふさわしい Web の教育項目として、アクセス権限の付与方法、情報セキュリティポリシーの改定した内容などについて適切に記述していること	
	(2)	教育効果をあげるために、受講者の習熟度に応じた教育、受講状況の掌握、継続受講によるレベルの向上、教育のサポートなどの実現について適切に記述していること	
設問 5		K 支配人以外の情報アクセス管理者を任命し、K 支配人不在時には、この管理者の許可を得て個人データにアクセス可能とする。	

問 2

出題趣旨	
<p>事業継続計画は、災害や事故の状況を想定し、業務の継続性を重視した、効率の良いかつ有効な計画として具体的に作成する必要がある。また、日常のセキュリティ対策を行いながら、事業継続計画の評価試験を実施しなければならない。</p> <p>本問は、事業継続計画の策定において、情報セキュリティアドミニストレータが実施又は助言すべき事項を主題としている。</p> <p>本問では、リスクアセスメント、代替手段の運用対策、稼働開始時刻の見通しなどを具体化できる能力を評価する。加えて、事業継続計画の評価試験の有効性とセキュリティ対策を考慮する能力も評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	a 力	
		c オ	
	(2)	e 固定電話 又は 携帯電話 又は 携帯メール 又は ファクシミリ	
設問 2	(1)	代替手段を実施する作業手順のマニュアル化、周知徹底、評価検証について、適切に記述していること	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多数の不動産情報が保管されているから ・ 顧客の個人情報が集中管理されているから 	
設問 3		準備したハードウェアに必要なソフトウェアをインストールして稼働可能とし、その状態が維持されることについて、適切に記述していること	
設問 4	(1)	バックアップシステムへの移行に必要な資源の一つであるバックアップデータの準備、又は移送方法の確保について、適切に記述していること	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要機材の納入時間 ・ バックアップデータの移送時間 ・ バックアップデータの復元時間 ・ システムの正常稼働確認時間 ・ 複数サーバ間のデータ整合性確認時間 	
		次の内容をそれぞれ適切に指摘していること	
設問 5		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の試験でレンタルするハードウェアを返却するときに、データファイルを完全に削除すること ・ 次回の試験に参加する外部参加者である E 社と守秘義務契約を結ぶこと 	